
サイバーダイノムニ、IoT位置情報に温度管理対応

Edited By LogisticsToday On 2018/07/27



サイバーダイノムニネットワークス(茨城県つくば市)は27日、IoT位置情報端末「Actyシリーズ」のオプション製品として、外部の環境温度や冷蔵車・冷蔵ケース内の温度測定を可能にするセンサープローブ「CAT-TP1」を、8月から販売開始すると発表した。

Actyシリーズは、スマートフォン技術を応用しており、アプリの開発や外部デバイスとの連携など機能拡張が容易な点の特徴。Wi-Fi、Bluetoothのほか、3G・LTE通信モジュール、GPS、ジャイロセンサー、加速度センサーを搭載しているため、車両の輸送状況とともに、急ブレーキ、急加速、急ハンドルなどの急挙動を検知したり走行データの収集・分析をすることが可能となる。

Beaconデバイスや各種センサー機器から収集した情報を束ねるIoTゲートウェイとして、日時や位置情報とともにデータをクラウドサーバーに送ることができ、温度情報のみならずBluetooth対応のドアセンサーと連動することで、輸送車の荷台ドアや冷蔵ケースの扉の開閉情報を管理することも可能としている。

IPX3の防水とマイナス20-70の使用環境に対応し、3800ミリアンペアアワーと大容量バッテリーを搭載できるため、最大6か月のバッテリー駆動が可能となり、電源を確保できない場合の長期輸送や倉庫保管にも利用できる。

CAT-TP1にはMAXIM社のデジタルインターフェースを採用し、Acty本体に接続するだけで信号と電源を供給可能。また、センサーモジュールには、プラスマイナス0.5 (マイナス10-85範囲)の高精度デジタル温度センサーを搭載している。

■製品問い合わせ窓口

サイバーダイノムニネットワークス営業部

mail:sales※cyberdyne-omninet.com(※を@に変更)

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/321965>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.